

## 孔子堂跡

孔子堂は、中国の哲学者である孔子を祀った堂で、菊池の文化が隆盛を極めていた時代には、儒学や仏教の学問だけでなく、知的探求全般の拠点となっていた。

堂は 1472 年、菊池当主の重朝（1449-1493）によって建てられた。重朝は、父であり先代の為邦（1430-1488）と同様、武士や町人への教育や地域文化の支援に力を注いだ。その結果、菊池は文化の黄金時代を迎え、詩歌や茶の湯などの娯楽が花開いた。

その流れの中心にあったのが孔子堂である。お寺に似た、いくつかの建物からなつたこの場所は菊池一族の学問所となり、遠く京都からも学者が集まり、講義や討論が行われた。禅と中国古典の権威で、中国の明の宮廷に数年間留学していた桂庵玄樹（1427-1508）もその一人である。

堂内には孔子とその弟子たちの像が安置され、孔子を祀る儀式にも使われた。これらの像は、1500年代半ばに菊池氏が滅亡し、孔子堂が解体された後、別の場所に移されて再利用されたと考えられている。